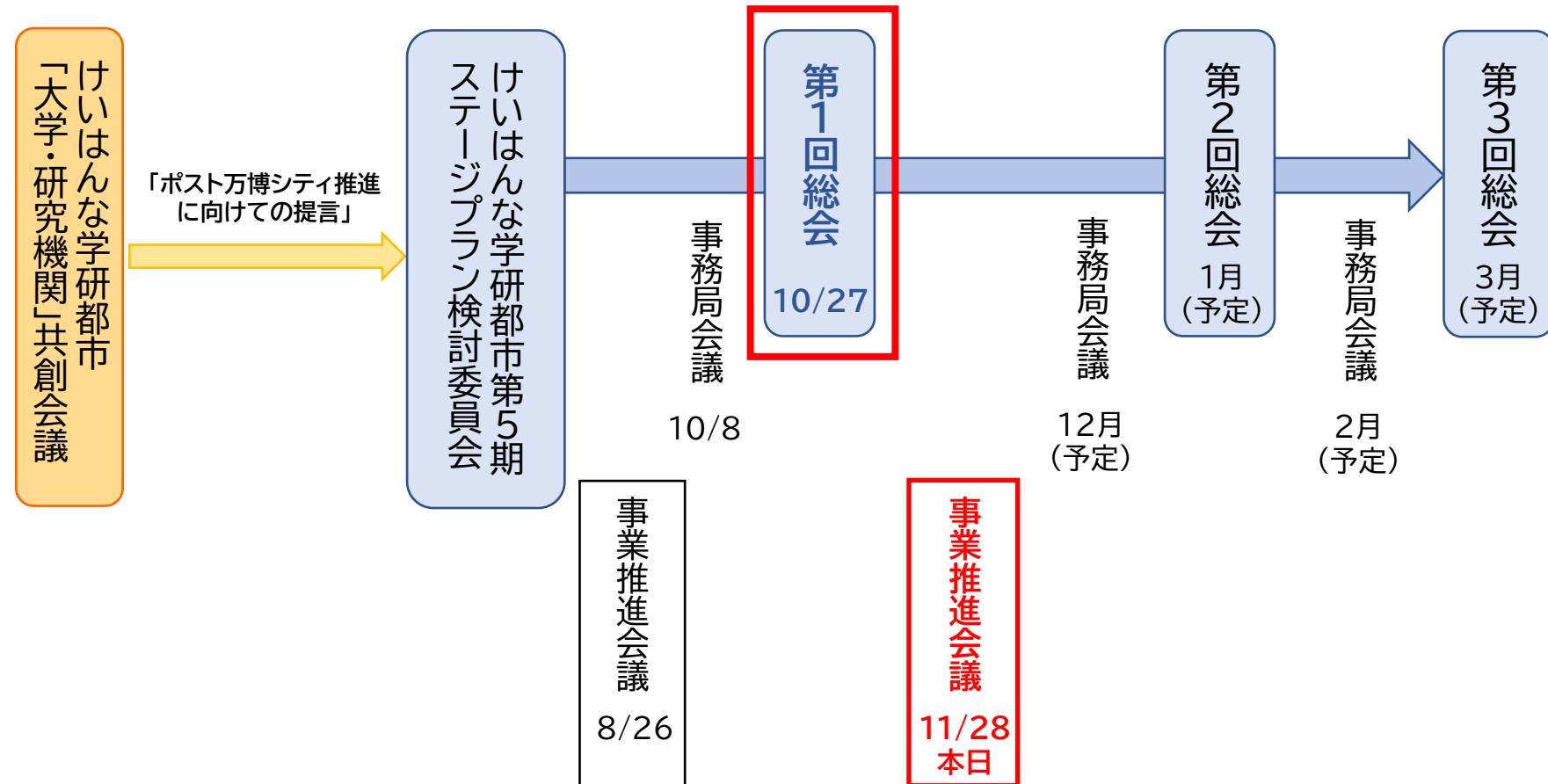


資料1

けいはんな学研都市次期ステージプランについて

次期ステージプランの策定スケジュール(予定)



「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」第1回総会

開催日:令和7年10月27日(月)

出席者:学研推進機構、学識者(学研都市内立地大学)、国(関係省)、府県市町、立地機関他
案 件:第5期ステージプランビジョン案についての意見交換など

「ポスト万博シティ推進に向けての提言」(抜粋)

令和7年(2025年)7月

出典：公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構株式会社けいはんな

<提言1> 都市としての在り方を根本から問い直し、社会課題解決に向けた「未来都市への深化」を図ること

これまでのけいはんな学研都市は、研究成果を試行的に実証する場として発展してきた。しかし、社会課題が複雑化・高度化する現代において、単なる「実証都市」に留まつてはならない。研究成果を現実社会へと迅速に実装し、さらに持続的に発展させる仕組みが必要である。

ポスト万博シティの実現に向けて、都市全体が「課題解決型プラットフォーム」として機能し、組織の壁を越え、社会実装に向けて交流・連携・共創して取り組むことで、日本や世界が直面する問題の解決に貢献する「いのちと文化を尊ぶ」新しい都市モデルを構築することが求められる。

- ① 都市工学に基づく快適でかつ持続可能な社会を構築するための新しい科学技術を導入したまちづくり
- ② 歴史・文化、自然、芸術等の人文社会系と最先端の自然科学系との融合による新しい知と文化の創造
- ③ ポスト万博シティを具体化するために、大学、研究機関、企業等がネットワーク化され、面としてのポテンシャルが強力に発揮される組織・体制の整備
- ④ 大学、研究所、企業、府県等の組織の壁を取り払う、または低くする仕組（データやシステムの連携によるシームレスな情報共有、秘密保持契約等によるセキュアに情報共有する仕組み、クロスアポイントメント制度を含む柔軟な人材交流の仕組み等）の導入
- ⑤ スタートアップ企業を呼び込む魅力的な環境、支援、土壌づくり（けいはんなスタートアップ創生・育成拠点）

<提言2> 次世代の研究者、イノベーター等、若い世代が活躍する「人材成長都市への深化」を図ること

ポスト万博シティの実現に向けて、イノベーション創出の原動力となるのは、多様な視点とバックグラウンドを持つクリエイティブな人材である。学生や女性研究者、外国人研究者が活発に交流し、共に研究開発を進められる包摂的な環境づくりが不可欠である。

また、子どものころから異なる価値観に触れ、自由にディスカッションができる環境づくりは、次世代の研究者やイノベーターを育成する上で極めて重要である。けいはんな学研都市には、異なるバックグラウンドを持つ若者が互いに刺激し合い、成長できる仕組みを備えた、新しい都市モデルを構築することが求められる。

- ① 高校生、中学生、小学生が日頃から科学技術や文化芸術を体験・体感でき、研究者と交流できる場の提供
- ② 大学横断型の理系女子学生チームによる小中学生対象の科学講座・科学フェスを通じた将来の理系女子育成への土壌づくり
- ③ 学研都市内にある大学・研究機関の垣根を超えた、グローバルで多様性あふれる相互交流やフィールドワーク、研究開発のできる「けいはんな大学機構(仮称)」の創設
- ④ 学生が様々な業務を体験できる、研究機関・スタートアップ企業による共同インターンシップ制度の導入
- ⑤ 国内外からの多様な研究者・博士人材の育成を図るための、短・中期滞在も可能な居住施設の確保、多言語対応等の人的交流環境の整備

<提言3> 「大阪・関西万博」のレガシーを継承、発展させ、世界に開かれた 「国際交流都市への深化」を図ること

ポスト万博シティの実現に向けて、大阪・関西万博を契機に集積された技術や知見、国際的なネットワークを一過性のものとせず、夢洲からけいはんな学研都市への「東西軸」を活かして発展につなげる必要がある。異なる世代、国境、専門分野等の価値観が交差し、新しい出会いが生まれる共創の場を実現することが、ポスト万博シティ実現の鍵である。

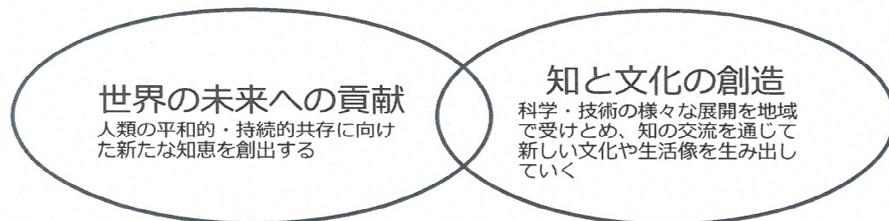
自由なディスカッションが可能な文化を根付かせ、万博レガシーを継承しつつ新たな挑戦に取り組む意識改革を促し、情報発信とブランド戦略により、けいはんな学研都市の知名度を高め、さらに発展させる新しい都市モデルを構築することが求められる。

- ① 公共施設等に「エキスポシティ」を冠した命名、万博展示物の移設誘致、万博で実証された技術を継承する中核的研究開発機関等の誘致
- ② ポスト万博シティにふさわしい、ユニバーサルで自由な交流サロン、コワーキングスペースの設置
- ③ 最寄り駅からのアクセス強化と 12 の文化学術研究地区(クラスター)間の交通インフラの整備
- ④ 大阪、京都、奈良を訪れる国内外の来訪者を、唯一無二の特徴を持つ学研都市内の施設や先進的研究機関等に呼び込む仕組みづくり(サイエンスコミュニケーターの育成等)
- ⑤ 大学、研究機関、立地企業の研究シーズを一堂に集めた展示・交流施設、子どもや教師のための「文化科学未来館(仮称)」(仮想空間上のものを含む)等の整備

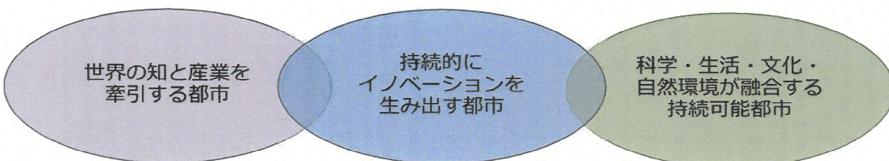
「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」第1回総会

現行ステージプラン

文化学術研究都市としての役割



具現化すべき都市の姿



ビジョン実現に向けた取組

①文化・学術研究の振興

主に「世界の知と産業を牽引する都市」の実現に向けて、世界の知を牽引する自然科学、人文・社会科学等の「文化・学術研究の振興」の取組を方向づける。

②イノベーション推進

主に「世界の知と産業を牽引する都市」と「持続的にイノベーションを生み出す都市」の実現に向けて、先進的な研究開発から新産業創出に至るプロセスを持続的に進めるため、「イノベーション推進」の取組を方向づける。

③都市形成

主に「科学・生活・文化・自然環境が融合する持続可能都市」の実現に向けて、豊かな都市空間の形成や自律的な都市活動の推進を図るために、「都市形成」の取組を方向づける。

④都市経営

主新たな都市創造に向けた取組を的確に推進していくため、多様な関係主体の連携の要となるネットワークハブの構築、上記3つの分野を推進するための連携・協働による新たな仕組みの構築、都市運営の基礎となり本都市についての国内外の一層の理解を深めるための情報の集約及び発信の仕組みの構築を方向づける。

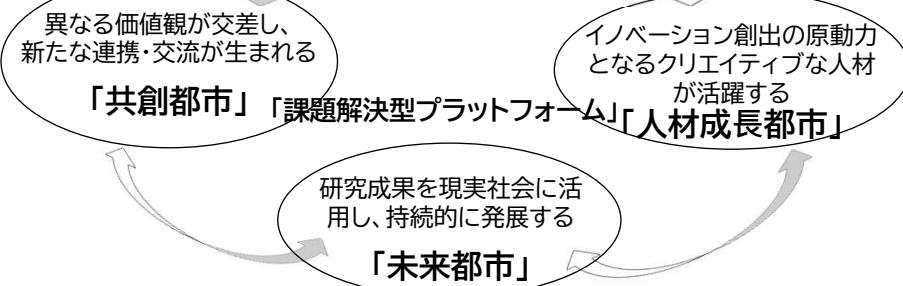
「大学・研究機関」共創会議の提言を踏まえた 次期ステージプラン(案)

果たすべき役割

『世界の未来への貢献』
『知と文化の融合による新たな文化創造』
日本や世界が直面する社会課題の解決への貢献

目指すべき都市像

“ポスト万博シティ”の実現



取組の柱

①社会課題の解決につながる研究成果を社会実装

関西の成長に寄与するため東西軸等関西の他の拠点との広域連携、実装化に向けた産学公住連携拠点、研究成果を実装する生産施設の導入 等

②イノベーションを推進する連携交流と情報発信

大学・研究機関等の共創ネットワーク化によるデータ共有、オープンラボの設置等による設備の共有、高度人材育成・相互交流 等

③知と文化の融合による文化創造

科学技術とアート等との融合、AI技術等の開発における日本文化の反映 等

④都市形成と交通アクセスの利便性向上

母都市とクラスター間の公共交通強化など都市内外の対流を促進するモビリティの向上、未整備クラスターの整備 等

⑤新ビジョンの推進

ネットワーク型都市運営等推進体制検討、各取組推進のための役割の明確化、税制優遇、規制緩和策等の検討 等

「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」第1回総会

<案>

果たすべき役割

『世界の未来への貢献』

『知と文化の融合による
新 た な 文 化 創 造』

日本や世界が直面する
社会課題の解決への貢献

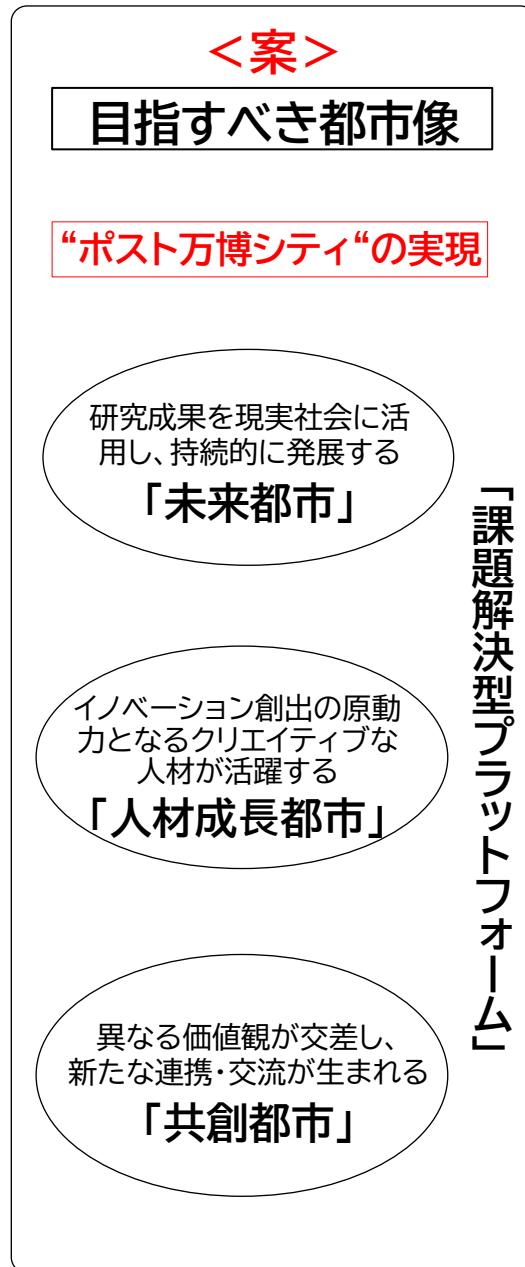
前回の推進会議での主なご意見

- 未整備クラスターのプラン作成時に、整備クラスターがあるという前提のもとにそれをどのように活用するかまで考えたプランにするのが良い。

第1回総会で出された主な意見

- 過去10年の成果やけいはんな万博の成果を反映し、**どのような地域を目指すのか明確なビジョンを示すべき**
- マイナスをゼロにするのではなく、**ゼロからプラスを生み出す**という視点を、果たすべき役割として明確に示すべき
- 防災時の脆弱性を踏まえ、内陸に位置するけいはんなの役割を強化し、**湾岸部と連携する「副首都」としての位置付けも重要**
- 国内外における**けいはんな学研都市の認知度・注目度の向上**
- **海外研究者が交流・滞在しやすい環境整備**
- 大学・研究機関の**集積メリットを最大限に活かす方策**の検討

「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」第1回総会



前回の推進会議での主なご意見

- 万博で披露されたような新技術の取り組みや海外との人材交流を加速させていく都市「**ポスト万博シティ**」として、けいはんな学研都市が選ばれた。

第1回総会で出された主な意見

- 大阪・関西**万博の成果を継承**し、持続的な成長につなげるべき。
- 科学技術、人文科学、アート、デザイン、生活者の視点など、**新たな価値創造**という観点を打ち出す必要がある。
- 地球規模でシームレスに**人材育成の対象**を広げる必要がある。
- Well-Being(幸福・生活の質)**の概念や消費者・生活者の視点を明確に盛り込むべき。

「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」第1回総会

<案>

取組の柱

①社会課題の解決につながる研究成果を社会実装

関西の成長に寄与するため東西軸等関西の他の拠点との広域連携、実装化に向けた産学公住連携拠点、研究成果を実装する生産施設の導入 等

②イノベーションを推進する連携交流と情報発信

大学・研究機関等の共創ネットワーク化によるデータ共有、オープンラボの設置等による設備の共有、高度人材育成・相互交流 等

前回の推進会議での主なご意見

- けいはんなの研究施設の社会実装、関西圏へのにじみ出しを考えると「東西軸」が重要
- 高度機能を備えた優秀な留学生が働くような企業に来てもらうと、企業も ASEAN諸国に進出する時に留学生が架け橋になるのではないか。
- 大学の基礎研究を社会実装や産業に繋げるためには、スタートアップの海外進出支援機関を誘致すると、より社会実装に向けての流れが円滑になる。

第1回総会で出された主な意見

- 広域的な連携のもと、研究成果を社会実装する必要がある。
- 研究シーズをいち早く社会に出し、社会からのフィードバックを得て再び基礎研究に還元するというエコシステムの構築が必要。
- 迅速に社会へ発信するスタートアップを進出企業群がどのように育っていくかが重要
- 社会課題の解決は魅力創出と一体で考える必要がある。
- 人材の交流・還流を促進する仕組みの整備が課題
- 課題解決だけで進むものではなく、新しい機軸や魅力を創出し、人が集まりわくわくする場所や機会をつくることが重要。
- 研究成果をけいはんなを訪れる学生や研究者が自由に利用できる環境づくりが重要

「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」第1回総会

<案>

取組の柱

③知と文化の融合による文化創造

科学技術とアート等との融合、AI技術等の開発における日本文化の反映 等

④都市形成と交通アクセスの利便性向上

母都市とクラスター間の公共交通強化など都市内外の対流を促進するモビリティの向上、未整備クラスターの整備 等

⑤新ビジョンの推進

ネットワーク型都市運営等推進体制検討、各取組推進のための役割の明確化、税制優遇、規制緩和策等の検討 等

前回の推進会議でのご意見

- 奈良・京都の伝統文化の魅力は、一段階上位の概念として必要。東京首都圏に対して関西の都市圏は、京都・奈良・大阪という多様性のある都市クラスター型の構造であり、**関西都市圏の非常に有利な点**である。
- 交通を伴った交流が不可欠。府県を越えたけいはんな学研都市の中での交通体系のあり方を、ステージプランで位置づけるべき。
- 交通ネットワークが**県境で止まっているのが大きな弱点**。
- 高山エリアと精華・西木津エリアの連携が、クラスター間連携の**最も重要なポイント**だ。

第1回総会で出された主な意見

- 技術革新だけでなく「無駄」や「楽しさ」を含む**文化的側面**を大切にすべき。
- アートとテクノロジーの融合も重要な視点。
- クラスター間の交流や交通手段(移動)の環境整備が必要。
- 既存開発地と未整備クラスターの役割を明確に区分すべき。
- クラスターの意義を明確にし、**クラスターごとの特徴や個性を生かした基盤整備**を着実に進めることが求められる。
- 「新ビジョンの推進」が取組の柱に入っていることに違和感。ライフスタイルや Well-being、人々の力やコミュニティの力を盛り込むべき。